

1 横須賀・三浦半島 Sky Tourism（スカイツーリズム）ーヘリコプターを活用した地域活性化事業（民官 4 社連携モデル）ー

市長

本日は、『横須賀・三浦半島 Sky Tourism、ヘリコプターを活用した地域活性化事業』についてご説明いたします。横須賀は、軍港クルーズをはじめ、猿島、浦賀ドック、海軍カレーなど、海や歴史、グルメといった多彩な観光資源を有しています。これまでも、この観光資源を活用し、市内外へ積極的に発信してまいりました。そして、このたび周囲を海に囲まれた三浦半島ならではの絶景を、空から楽しんでいただける機会を新たに創出いたします。本事業は、浦賀を新たな拠点とし、観光誘客や地域経済の活性化を目的に、ヘリコプターを「横須賀・三浦半島エリアの新しい観光・体験の手段」として活用し、地域の自然・歴史・文化資源のさらなる活用と発信力向上に取り組むものです。

また、本事業は行政と民間企業が連携して強固なタッグを組み、インバウンドや富裕層を含むお客様の多様なニーズに応えられる、新たな観光価値の創出を目指します。この取り組みは、我々横須賀市と、京浜急行電鉄株式会社さん、株式会社 AirX（エアーエックス）さん、そして株式会社ユニマットプレシヤスさんの 4 者がそれぞれの強みを生かしながら連携して進めてまいります。京浜急行電鉄株式会社さんは地域の交通と観光ネットワーク、株式会社 AirX さんはヘリコプターの手配・予約管理等、株式会社ユニマットプレシヤスさんは浦賀のシティマリーナヴェラシスのヘリポートを活用した拠点整備、そして横須賀市は地域観光資源の魅力発信を担い、民官が一体となって新しい観光事業のモデルを始動します。まず第一弾としてシティマリーナヴェラシスのヘリポートを離発着地とした、ヘリコプター遊覧を開始します。詳細はお手元のチラシをご覧ください。東京湾や相模湾の絶景を空から堪能し、自然と都市が共存する三浦半島を一望できる 3 つのコースを展開してまいります。また、今後は、体験型観光との連動や、宿泊を組み合わせた観光コンテンツへと展開し、地域全体の観光回遊性・付加価値向上を図ってまいります。本日は、この取り組みの第一弾である遊覧のイメージをお伝えする映像をご用意しております。それでは、前方両サイドのモニターをご覧ください。

（イメージ映像上映）

いかがでしたでしょうか。横須賀の新しい観光の可能性を感じていただければ幸いです。一方で、本事業の実施にあたっては、飛行ルート、騒音確認など、地域の皆様からのご意見への対応も確実にいき、安全面や生活環境に十分配慮し、丁寧に事業を進めてまいります。将来的には、高級宿泊施設との連携や次世代型モビリティも視野に入れ、全国でも先進的な観光モデルへと成長できればと考えております。

京浜急行電鉄株式会社：川俣取締役社長

今、映像を改めて見させていただきました。上空から見ると、三浦半島は海に囲まれ、普段、地上から見ているものと全く違う、本当に魅力的な景色だと再認識いたしました。

我々の事業紹介をいたしますと、我々のグループは、「移動」と「まち創造」という 2 つのプラットフォームで相互に価値を共創していき、三浦半島を中心に沿線の持続的な発展を目指すという事業を進めているところです。

「移動」につきましては、もちろん鉄道、それからバスを中心にいろいろな交通手段を用いた移動環境の整備を行い、最適化してまちの価値を上げ、そして沿線の範囲を広げていく、モビリティのマネジメントをしていくということです。

一方、「まち創造」につきましては、都市機能の更新や生活支援を通じ、地縁や移動のきっかけを作り、人に移動していただき、人の流れを創出する、いわゆるエリアマネジメントを推進することです。この2つが相互に価値を提供し合って相乗効果を生み出していこうと、戦略を進めています。横須賀、三浦エリアにおいては、日々、エリアマネジメントの活動を通じて、横須賀市さんをはじめとする自治体、また企業、大学、地元の皆様など、様々な主体、様々な方について、我々はつなぎ役として、場を作ってつなげていくというコミュニケーションハブの役割となり、それによって三浦半島全体の課題解決ですとか、価値の向上に取り組んでいます。

「移動」につきましては、これまで、鉄道、バスなどの陸上の移動に加えて、葉山マリーナを運営している関係で、海上タクシーという、海の移動についても最近取り組んでいます。今回は、さらに空の移動ということで、お集まりの皆様と連携してヘリコプターを活用した空からのアクセスを進めます。

ヘリコプターの運航を行っていただく AirX さんとは、長いご縁がありまして、2021 年度に浦賀でヘリコプター遊覧の実証実験を行っております。そんな経験を踏まえて、将来的には空飛ぶ車、当然そういうところを目指してまいりたいと思っています。我々は、羽田空港に乗り入れておりますので、空路、空の移動というものも視野に入れて、いろいろな可能性を追求していきたいと考えています。

三浦半島については、現在、都市近郊リゾート三浦の創生を目指して、多くの事業者さんと連携して三浦半島の魅力を存分に味わえる拠点の整備や移動手段、モビリティ基盤の構築など複数のプロジェクトを進めております。その中で、富裕層や、今、なかなか弱いと言われていますが、インバウンド、そういった方々にもご利用いただけるような、観光、移動の幅広いニーズに対応することを目指して、この新たな空のコンテンツを皆様と共に育てていければと考えております。本日は誠にありがとうございました。

株式会社 AirX：藤園執行役員

弊社は、空を身近に、人生を豊かにというミッションのもと、全国各地でヘリコプター、ならびにプライベートジェットの手配をしております。弊社では、独自でヘリコプターを保有しているわけではなく、全国各地で、普段ヘリコプターを使っていない時間帯に、使いたいユーザー様とマッチングをさせていただくプラットフォームを運営しております。今回、当社としてはヘリコプターの手配だけではなく、予約ページの運営、ならびに、安全を司るオペレーションの部分を主に担当いたします。

今、映像でもご覧いただいたとおり、ヘリコプターは普段の旅客機とは違って、高度が低いところを飛びますので、動く展望台とイメージしていただければと思っています。移動に関しても渋滞はございませんので、インフラが整っていない地点と容易につなぐことができる次世代の交通手段になり得ると思っています。このように、空をもっと身近に感じてもらうことによって、例えば何か有事があった際に、民間の立場から、災害、防災の対応もできると我々は考えています。

また、我々は、今現在、大阪・関西万博での目玉の一つでもある空飛ぶ車を自社で1機保有をしております。各場所でイベントを通して空のあり方や空飛ぶ車の機運醸成のイベントをさせていただいております。今後、こういった次世代の部分も、当然、必要になってくると我々は考えていますが、空飛ぶ車に限らず、ヘリコプターでも、空のあり方をより知ってもらうきっかけになれば嬉しく思います。本日はありがとうございました。

株式会社ユニマットプレシャス：伊藤取締役

我々は、マリン事業ということで、全国で7つのマリーナを運営させていただいております。今回、ヘリポートとしてお選びいただいたシティマリーナヴェラシスは、明治30年に渋沢栄一氏によって造られた造船所、川間ドッグを源流としており、浦賀の近代史と共に形を変えながら歩んできたマリーナです。このたびは、横須賀市様より横須賀・三浦半島 Sky Tourism のヘリポートとして、このような形で声をかけいただいたことを大変ありがたく思っております。今後もユニマットグループといたしましては、東京湾の玄関口である横須賀・浦賀の観光地としての魅力向上に少しでも貢献できればと思っています。本日はありがとうございます。

市長

遊覧ヘリコプターという新しい視点を加えることで、「海から、陸から、そして空から」横須賀の魅力を余すことなく体験できるまちを目指してまいります。是非多くの皆様に、横須賀ならではの空の旅を楽しんでいただけることを願っております。

第一弾遊覧飛行の発売は9月26日14時を予定しており、株式会社AirXさんのウェブページからご予約いただけます。また、横須賀市観光情報サイト、京浜急行電鉄株式会社さんのホームページからも詳細をご覧ください。今後とも4者連携による地域活性化の取り組みに引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■質疑応答

記者

合計2日で何本運航予定でしょうか。また、稼働するヘリコプターは1機でよろしいでしょうか。

横須賀市：プロモーション担当課長

今のところ、1日10本から20本ほどを予定しています。実際、コースは15分コース、30分コースなどバラバラですので、お客様のご要望に合わせて変動いたします。1組ごとのご予約につき、1回のフライトという形でやっていく予定です。またヘリコプターは1機のみで実施をしております。

記者

なぜヘリコプターなのでしょう。また、どちらから持ちかけたのか、そういった経緯含めてお聞かせください。

横須賀市：プロモーション担当課長

なぜヘリコプターかという、今、地上の観光、それから海、例えば猿島など、フェリーを使った観光がありますが、今のところ空という観点での観光がありませんでした。この三浦半島は三方を海に囲まれていて、景色が非常に素晴らしい。これを空の上から一望できる、これがとても魅力だと思います。足りないものは何かといういろいろ考えていく中で、空という一つのキーワードが出てきて、それを実現するために京浜急行株式会社さん、ユニマツプレッシャスさん、AirX様と連携すれば、いいコンテンツができると考えて、実施にいたしました。

市長

三浦半島はイタリア半島と県知事が言っておられます。これはその前から、もう何十年も前から言われていることです。三浦半島は、文字通り半分は島だからと言われていて、地政学的に交通、経済的に不便で、ハンディ戦だと思っています。ただ、反面、一番良いところはそのロケーションだと思っています。私も何回かヘリコプターに乗っていますが、まさにイタリア半島と同じようです。空から俯瞰的にものを見るというのは非常に大切で、感性も養われます。感性をアップグレードさせるには、三浦半島を是非空から見ていただきたいという思いが非常に強い。内外ともに、三浦半島を見直す機会になればと思っています。横須賀だけではなく三浦半島全体を見てもらうことは、横須賀・三浦半島の大きな財産にもなります。見ていただく方にとっても非常に感性が豊かになって、うなずいていただけるものと確信をしています。是非、まず一回乗っていただいて、ご覧いただきたいと思います。

記者

10月25日、26日にまず一回やって、それから、来年度以降も2日間開催をしていくということでしょうか。

市長

はい。

記者

AirXさんは全国でこういったヘリコプター観光は、どこで何か所やっているのでしょうか。

株式会社 AirX：藤園執行役員

常設ですと、都内に関しては4か所です。関西地区になりますと、3か所を常設でやっております。時期折々では、例えばこれからシーズンになる日光エリアなど、時期限定でやっているところもございます。

記者

都内の常設はどこでしょうか。

株式会社 AirX：藤園執行役員

千葉の船橋市内、神奈川の鎌倉市内、埼玉の三郷市内、東京の江東区の東京ヘリポートです。

記者

関西はどこでしょうか。

株式会社 AirX：藤園執行役員

関西に関しましては、八尾空港、大阪ヘリポート、京都になります。

記者

ユニマットプレシャスさんにお聞きします。ヘリポートは御社が保有しているのでしょうか。

株式会社ユニマットプレシャス：伊藤取締役

はい。我々の敷地内にございます。

記者

面積はどのくらいでしょうか。

株式会社ユニマットプレシャス：伊藤取締役

マリーナの隣に2万坪ほど土地があり、その一部です。

記者

いつから使用しているのでしょうか。

株式会社ユニマットプレシャス：伊藤取締役

いつからというのは、いま、分かりかねます。

記者

最寄り駅はどこでしょうか。

株式会社ユニマットプレシャス：伊藤取締役

最寄り駅は浦賀です。

記者

徒歩何分でしょうか。

株式会社ユニマットプレシャス：伊藤取締役

だいたい2キロですので、バスかタクシーでの移動になるかと思います。

記者

集合場所に集まったら、利用者は車で連れて行ってもらえるのでしょうか。

株式会社ユニマットプレシャス：伊藤取締役
バスで移動です。

記者

ヘリポートについて、これはもうできあがっているのでしょうか。

株式会社ユニマットプレシャス：伊藤取締役
以前より使用しています。

記者

このエリアは以前大きなホテルなど計画があったかと思いますが、今後の発展的なものなどはございますか。

株式会社ユニマットプレシャス：伊藤取締役

将来的にはその土地を使ってホテルや商業施設を作っていきたいという計画はありますが、いろいろな規制もありますので、行政と協議、相談をさせていただいているところです。

記者

どのくらいの高度を飛行するのでしょうか。

株式会社 AirX：藤園執行役員

対地で約 300 メートルから高いところで 500 メートルを予定しております。

記者

三浦半島は観光地の一面もありますが、安全保障上、非常に重要な地域でもあると思います。上から見られること嫌がるところが何か所もあるでしょうし、三浦半島沖の相模湾から太平洋にかけては米海軍のヘリの訓練飛行をするエリアに重なるのではないかと考えています。そのあたりをクリアするような計画はあるのでしょうか。

株式会社 AirX：藤園執行役員

飛行ルートに関しましては、まずは騒音被害がないようなルートを選定しています。

また、見てはいけないルートも含めて、事前に調査の上、ルートを選定しておりますので、それを害さない飛行ルートになっております。

記者

以前に浦賀で実証実験をしていたとのことですが、どのような形でやっていたのか教えていただけますでしょうか。

横須賀市：文化スポーツ観光部長

浦賀での実証実験ですが 2 日間実施しました。3 分、5 分、15 分のコースで、15 分は城ヶ島・葉山のコースで開催しています。非常に好評で 1 日 50 人程度、約 120 の予約があり、キャンセル待ちが出る好評なフライトになりました。

記者

一般の方向けに実施されたのでしょうか。

横須賀市：文化スポーツ観光部長

そのとおりです。一般の方に浦賀のフライト、上空を楽しんでいただく周遊観光を実施しました。

記者

今回、自治体が主体になる、いわゆるヘリの遊覧飛行というのは全国的に初めてでしょうか。

横須賀市：文化スポーツ観光部長

観光飛行は、箱根ですとか、そういったところでもございますが、自治体が主体となってやっている例はあまり聞いたことがありません。ただ、全国初かどうかというところまでは確認できておりません。

記者

AirX さんにお伺いします。首都圏や関西で観光遊覧をやられている中で、特に人気のエリアや、コンテンツとして引きが強いものはどのようなものでしょうか。先ほど日光のお話がありました。紅葉の季節など需要があると思います。どういうところが人気で、三浦半島の場合、一番強いコンテンツになってくるのはどのようなものだとお考えでしょうか。

株式会社 AirX：藤園執行役員

都内に関しては、夜の遊覧が非常に人気になっております。昼はまた違う景色が見られ、インバウンドの方にもすごく人気になっております。例えば、都内の山手線を上から見るとは人気のコンテンツかなと思っております。

三浦半島エリア全体に関しては、先ほど映像で見ていただいたとおり、やはり空からしか見られない場所というのがありますし、また短い時間で見ることは、非常に魅力的なコンテンツになり得ると我々は考えております。

記者

多いところで1日何件くらいの利用があるのでしょうか。また、今回は中長期的にはどれくらいの利用を目指しているのでしょうか。

株式会社 AirX：藤園執行役員

都内では、多い日で、1日20組から30組くらいです。将来的には、次世代のところも、今後、2020年代の後半にやってきます。そういったハイブリッド型のところで運用していくと、もっと多くできる機会が増えると思っておりますが、まだ何回かというのはわからない部分がございます。

記者

京浜急行電鉄さんにお伺いします。先ほど羽田空港のアクセスもあるのではという話がありました。富裕層やインバウンドの方からすると、遊覧そのものよりも、移動プラス遊覧観光という目的が一番現実的かと思います。実際にやっていくにあたってクリアしなければいけない課題というものはどのようなものになってくるのでしょうか。移動手段を合わせてとってくると、いつスタートできるスケジュール感なのか教えていただけますか。

京浜急行電鉄株式会社：川俣取締役社長

いつ頃スタートできるのかというところはまだ見極められていません。ただ、おっしゃるように、リゾート地との移動に空路を使う必要があるというのは、我々もいろいろところで悩んでおります。問題は、ルートですとか、それをどのような仕組みでやるかということだと思います。それをこのような実験をしながら見極めていきたいと考えております。まだまだ、いつ頃実現できるかというところまでは、見定められていないのが実情です。

横須賀市：文化スポーツ観光部長

先ほどのご質問への回答を一部訂正させていただきます。当日の遊覧飛行ですがユニマットプレシヤ様に駐車場をお借りしています。お申込の方は、車でお越しいただくか、浦賀から路線バスでお越しいただきます。また、2022年に実施したのは3日間です。7日間の予定でしたが3日間で73便の運航でございました。

記者

この事業に関する自治体からの支出はありますか。あればどのくらいでしょうか。

横須賀市：文化スポーツ観光部長

今回の運航に関して負担はございません。金額的には、これからの横須賀の観光アイテムとして自走可能な形の料金設定になっております。ただ、事前のPRなどは市として実施していきたいと思っております。

記者

今回、運航するヘリコプターの機体の特徴やポイントなどを教えてください。

株式会社 AirX：藤園執行役員

パイロットを含めて4名乗れる機体です。パイロットが右前の席、お客様が左側の助手席と後部の2席の合計3席です。どの席からも窓席になっていて観光遊覧に適している機体だと思っております。また、比較的小型のヘリで、騒音も比較的小さい機体です。そういったことも含めて今回の機体を選定しております。

記者

報道陣が乗る機会がありますか。

横須賀市：文化スポーツ観光部長

是非、皆様にご体験いただき素晴らしい三浦半島のフライトをPRしていただければと思いますので、検討させてください。

記者

市長は乗られましたか。

市長

遊覧ではないですが、2、3回ほどあります。だからお見せしたいという思いが前からありました。

■案件外の質疑応答

記者

前回の記者会見から1ヶ月ほど経過しましたが、その後、日産追浜工場の人員整理ですとか、土地活用も含めて、日産側から何か情報提供などありましたら教えてください。

市長

その後の情報提供などはありません。

記者

事務レベルでの調整をしているという認識でよろしいでしょうか。

市長

事務レベルで調整していると言いますか、定期的に連絡はあると思いますが、具体的な進展はありません。

記者

大きく3点あります。1点目は、今日、自民党総裁選が始まり、地元の小泉進次郎代議士が出馬し

ました。小泉候補への思いがありましたら、お伺いしたいと思います。

市長

若い時から知っていますので、是非がんばってもらいたいと思います。私は新自由クラブ、多党化現象、様々な時代を生きてきました。その中で、やっとこういう形になって、比較第一党、連立という形の流れの中で、失敗や様々な歴史があった中で、ようやくきっちりとした連立というか、考え方によって分かれる時代になった。考え方によって政党がきっちり整理できる時代になったということを経験から見て感じます。その中で、その意味では、小泉進次郎代議士が、そこをうまく調整できていると思っています。感性も豊かです。新しい流れを是非作ってもらいたいと思います。エールを送りたいと思います。

記者

2点目ですが、先日、三重県の四日市で記録的な豪雨があり、駐車場が水没するという事案がありました。横須賀市にも地下駐車場、ぴぼ 320 がありますが、四日市と同じようなことが起きる可能性があるのかどうか、また、四日市は止水板の故障というミスのようなものがありました。現状、ぴぼ 320 の駐車場はどのようになっているか教えてください。

副市長

豪雨であそこまでの状態になるというイメージはないですが、津波などではあると思います。止水板については設置されていますし、点検もしておりますので機能しております。

記者

豪雨はないと言い切れるのでしょうか。

副市長

そういう意味で言いますと、豪雨が来た時のための止水板もきちんと機能し、点検もしていますので、動かないということもあります。それは今の範囲の中ではできる限り対処しているということです。※記者会見後訂正：止水版ではなく土嚢での対応となる

記者

先日、プレスリリースがありましたが、高齢者の見守りのサービスで、電話でのやりとりで間違っ
て見守りが解除になってしまっ
て、結果的に亡くなられてしまったという事案がありました。市長は、常々、誰も一人にさせないとおっしゃっている中で、このようなことが起きたことについての受け止め、また改善策についてお考えがあれば教えてください。

市長

非常に残念でなりません。見守りを含めて、誰も一人にさせないまちを創るためにはどうしたらいいかということを、常に、今も考えている中で、この初歩的な間違いがどうして起きるのか、絶対に許されないことであり、徹底してこのようなミスがないように常に確認作業をするように職員には指示をしています。

記者

先日、米海軍の司令官交代式がありました。議会の関係で市長は参列されなかったと思います。ソボル大佐との協力関係の中で、これまで交通教育などについて、出向いて直接お話しされたりしたと思います。新しい司令官になったことへの所感と今後の交通教育について、考えていることなどを教えてください。

市長

今日、ちょうど挨拶に来られて、初めてお会いして率直に意見を交わさせていただきました。ソボル大佐からもいろいろな話を聞いているということ、また横須賀での任務は16年目と伺いました。16年いるということで、歴史も含めて横須賀市の環境をよく理解しているようでしたので、一から

信頼関係を作る以前に信頼されているなということ、また良い関係でやっていきたいという思いが強かったということを感じました。交通教育についても非常に難しい問題ですが、できる限り協力をさせていただくと司令官からお話をいただきました。

記者

各関係機関とは調整をしている最中でしょうか。

市長

調整をしている最中です。

記者

小泉進次郎氏からは、直接、市長に連絡はあったのでしょうか。

市長

電話がありました。2週間くらい前だったと思います。出馬する決意を固めたということでした。自民党の皆様がお集まりになられた日の前の日です。発表します、とのお話でした。

記者

出馬する決意を固めたから、市長、よろしくお願いします、というお話だったのですね。

市長

はい。

記者

市長はどのようにお話したのでしょうか。

市長

がんばれと。時というか流れというものが大切で、昔の政治みたいに、順番を待つという時代ではなくなったと伝えました。一回待って、次の恩を売って何かをするという時代ではなくて、時の流れが呼べば、今は飛び込むべきだ、私はそのように感じますと言ったら、「上地市長らしいですね。がんばります」とのことでした。

以上